

# 「ガラスの歴史」発刊

社員の研修用資料にも

田中タナチョー社長の書籍



田中タナチョー社長の5000年の歴史をまとめた「ガラスの歴史」が発刊された。

タナチョー（東京都中央区）の田中廣社長は1月15日、アマゾン、楽天市場、丸善出版から単行本『ガラス

の歴史―輝く物質のワ  
ンダーランドへの誘  
い』（1200円、19  
80円税込み）を発  
売した。5000年に  
も及ぶガラスの歴史を  
コンパクトにまとめ、  
これからのガラスの可  
能性、SDGs（持続  
可能な開発目標）に貢  
献するガラスの魅力に



について語った一冊。同社社員の研修用資料としても活用される。田中社長に発刊の経緯などを聞いた。

◇

タナチョーは1994年に100周年記念誌『空間に太陽と健康をデザインする―ガラス文化の創造』を発刊。その際、1992年に入社した田中社長はガラス業界の勉強を兼ねて記念誌編さんチームに加わり、ガラスの歴史の箇所を担当した。田中社長は慶応義

塾大学経済学部で経済史（欧州近代）を専攻しており、「自分の得意分野である経済史の分野からガラスの世界を知ってほしい」と考えていた。その後、記念誌を作った原稿から抜粋・編集し、社員向けの研修資料として活用していた。ただ、時間の経過とともに内容が古くなってきたため修正する必要があるが、忙しいこともあり対応できていなかった。

がガラス業界のためになるので、社外でも広く読めるような本にしてはどうか」という意見をもらったので、業界関係者やガラスに関心がある人に対して「ガラスの魅力を発信するのに役立てば」と思い、単行本として発売することにした。

内容は、序章「ガラスとは何か」、第1章「古代から遙かな道」、第2章「中世から近代へガラスの進化」、第3章「近代建築の夜明け」、第4章「多様化する建材ガラス（日本を中心に）」、第5章「変動する世界 環境・防災・ITに対応するガラス」、終章「振り返りと展望」。

コロナ禍で時間ができたため、内容を見直そうとしたところ、役員から「せつかくなら本にしたら」と話があった。そこで、研修用の本を作成することにし、内容をAGC、日本板硝子に確認してもらったところ、「内容

田中社長には「例えば、イギリスのピルキントン社が発明したフロートガラス製法は、経済史上でも非常に有名なイノベーション。ガラス業界にいる人でもそのことを知らない人がいるかもしれない。あらためて確認してもらいたい」という思いがあり、「今こそガラスのステータスは低下（？）したように思われるが、近代建築を支えた三大要素は『鉄・セメント、ガラス』だといわれている。ガラス素材には、遮熱・断熱、セルフラシーニング、IT（情報技術）用、サイネージ、発電などさまざまな可能性があり、SDGsにも大きく貢献する。5000年の歴史もさることながら、今後の進化にも期待できると語る。

と語る。